



1月8日

画展の収益金を寄付

絵画サークル「チャーチル会恵那」幹事長の小板幸光さんと、幹事の渡邊鈴政さんが市役所を訪れ、画展の収益金を市に寄付しました。

平成30年12月14日から16日の3日間、恵那文化センターで開催した同会主催のチャリティー画展の収益金を寄付したものの。同会のチャリティー画展は今回で20回目で、毎回、市へ寄付を行っています。

小板さんは「絵は誰でも楽しんで描けるもの。これからもたくさんの人に画展を見に来てもらいたい」と話し、寄付金3万円を小坂市長に手渡しました。この寄付金は、社会福祉事業に役立てられる予定です。



12月16日

創作音楽劇で市民らが熱演

恵那文化センターで創作音楽劇『ふるさとの昔話』が開催されました。平成16年に行われた県民文化祭恵那公演をきっかけに、翌年結成された「恵那音楽劇の会」によって、自主公演が続けられてきたこの音楽劇。「ふるさとの昔話」公演実行委員会が主催し第6回を迎えました。

この日は、一粒の豆にまつわる尼僧の物語『豆の木地蔵』と、山の境をめぐる起る悲劇『椿屋敷』の2幕が上演されました。市内から小学生を含む多くの方が出演し、積み重ねた練習の成果を披露。迫力ある歌声と演技で、約600人の観衆を感動に包み込みました。



12月12日

全国中学生人権作文で法務事務次官賞

第38回全国中学生人権作文コンテストで上位12編に入賞した、恵那北中学校3年生の額額ほのかさんが、入賞報告のために市役所を訪れました。今回のコンテストには、全国から933,922人が応募。額額さんの作品はその中から上位12編に入る、法務事務次官賞を受賞しました。

額額さんは「私の思いがたくさんの人に知ってもらえて、認めてもらえたことを嬉しく思います。他の受賞者の作品を読んで、人権についてたくさん考えることができ良かったです。知ったことを生かして人権について考えていきたいです」と話しました。



12月12日

リニアを生かしたまちづくりを探る

恵那文化センターでリニアまちづくり講演会が開催されました。この講演会は、恵那商工会議所と市が、リニア中央新幹線の波及効果を最大限に生かすためのまちづくりを考えようと開催したものです。講師はNHK制作局ドラマ番組部のチーフ・プロデューサー、勝田夏子さん。NHK連続テレビ小説「半分、青い。」を制作して感じたことというテーマに、約190人が耳を傾けました。勝田さんは「リニア中央新幹線開業により、人の往来がより多くなるからこそ、何を発信していくかが問われる」と話し、リニアを生かしたまちづくりのアイデアを伝えました。



1月20日

百人一首と郷土かるたを楽しむ

中野方コミュニティセンターで、中野方新春かるた取り大会が開催されました。市民三学中野方委員会が主催し、今回で10回目。前半は小学生が百人一首で競い、後半は園児や児童、大人を含む参加者全員が、中野方町の歴史や文化を題材に作られた郷土かるた「中野方かるた」で競いました。恵那北中学校の生徒6人が、かるたの読み上げや司会進行などを担いました。

百人一首高学年の部で54枚を取り優勝した、中野方小学校6年生の鈴木起侖君は「今まで頑張ってきたが、かるたの読み上げや司会進行などを楽しみました。その成果が出て良かったです」と喜びを述べました。



12月19日

寄付金購入品をお披露目

昨年6月にユニオン機工株式会社(本社・三郷町)から三郷小学校と恵那西中学校へ贈られた寄付金で、両校が備品を購入し、この日、三郷小学校で、同社の麦島社長らを招待したお披露目式が行われました。

三郷小学校ではボルダリングウォール2基などを購入。6年生の曾我元飛君と町野陽愛さん、丸山愛心さんが「登り方を教わりながら楽しく使っています。これからは大切に使っていきます」とお礼を述べました。恵那西中学校3年の大野隼人さんと野添麻里奈さんは、ICT(情報伝達技術)を活用した中継映像を介して、恵那西中学校からお礼の言葉を伝えました。



12月14日

地域を見守る合同防犯パトロール

大井町地域防犯パトロール隊と長島町交通防犯パトロール隊の合同年末一斉パトロールが行われました。恵那警察署のパトロールカーや地域の防犯パトロールカー、地域の隊員112人が、大井町の中央公園から市街地一帯に向け出発しました。

大井町地域防犯パトロール隊の岩井慶次隊長は「年末年始、みんなが明るく過ごせるように、見守りをお願いします」と、長島町交通防犯パトロール隊の三戸喜久雄隊長は「買い物や仕事をしながら子どもたちを見守る『ながら見守り』は、地域でできる活動」と話し、地域ぐるみの防犯意識向上を訴えました。



12月12日

LGBTへの理解を深める

岩邑中学校で、全校生徒133人が「LGBTって何？」をテーマに学びました。この日は、長野県駒ヶ根市から「WNライフ・ながの」代表の北原慶作さんを招き講演を聴きました。北原さんは、異性愛や同性愛、両性愛など性指向の多様性を紹介し「性的少数派の人たちの存在を認めながら生きていけるか。自身で考え、家族とも話し合ってもらいたい」と、生徒たちに呼びかけました。

3年生の小椋太貴さんは「現在の社会はLGBTの方に対して差別を生んでしまっている。日本全国だけでなく、差別のない世界をつくっていきたい」と話しました。